あいちビジョン 2030

暮らし・経済・環境が調和した輝くあいち

～危機を乗り越え、愛知の元気を日本の活力に～

目次

はじめに …… 1

Ⅰ　2040年頃の社会経済の展望 …… 2

Ⅱ　めざすべき愛知の姿

1　危機に強い愛知 …… 4
2　すべての人が生涯輝き、活躍できる愛知 …… 5
3　イノベーションを創出する愛知 …… 6
4　世界から選ばれる魅力的な愛知 …… 7

Ⅲ　2030年度に向けた基本目標 …… 8

Ⅳ　地域づくりの推進に当たっての横断的な視点 …… 8

Ⅴ　重要政策の方向性

1　危機に強い安全・安心な地域づくり …… 9
2　次代を創る人づくり …… 10
3　すべての人が生涯にわたって活躍できる社会づくり …… 11
4　安心と支え合いの社会づくり …… 12
5　豊かな時間を生み出す働き方が可能な社会づくり …… 13
6　イノベーションを巻き起こす力強い産業づくり …… 14
7　世界とつながるグローバルネットワークづくり …… 15
8　スーパー・メガリージョンのセンターを担う大都市圏づくり …… 16
9　選ばれる魅力的な地域づくり …… 17
10　持続可能な地域づくり …… 18

Ⅵ　地域別の取組方向 …… 19

尾張地域 …… 20
西三河地域 …… 22
東三河地域 …… 24

はじめに

本県は、2008年以降の世界同時不況や2011年の東日本大震災など我が国が直面した危機に際して、日本の成長エンジンとしての役割を担い、我が国が危機を乗り越えるための原動力となってきました。こうした中、本県の経済は、製造品出荷額等では42年連続日本一（2019年時点）、県内GDPでは、2015年に大阪府を抜いて全国第2位となっています。

将来を展望いたしますと、今後も起こりうる感染症や近年、益々激甚化している風水害など安全・安心に対する意識が高まっていく中で、我が国全体の人口減少の進行とともに人生100年時代ともいうべき長寿社会の到来が予想されています。また、グローバル化や第４次産業革命の進展に伴い、産業構造のみならず人々の働き方も大きく変わるものと考えられます。さらに、リニア中央新幹線の全線開業により、本県は、三大都市圏を包含するスーパー・メガリージョンの中心に位置することになります。

このビジョンは、このような将来の展望のもと、2030年度までに重点的に取り組むべき政策の方向性を示す、愛知の地域づくりの基本となるものです。

目標年度の2030年度に向けては、ジブリパークやアジア競技大会、リニア中央新幹線など数多くのビッグプロジェクトを着実に進め、地域の更なる発展につなげていくとともに、これらを最大限活かして、イノベーションを創出する好循環を生み出すことで、将来にわたって、日本の成長をリードし続ける愛知を形づくっていかなければなりません。また、ビジョンと目標年度を同じくするSDGsの達成に向けて、暮らし・経済・環境の3側面の調和を図り、持続可能な社会を実現していく必要があります。そして、そのためには、現在、県民の皆様の生活や経済活動に深刻な影響を与えている、新型コロナウイルス感染症の克服に全力で取り組み、世界同時不況、東日本大震災に続き、我が国が直面するこの未曾有の危機を三たび、乗り越えていかなければなりません。

こうした思いを込めて、「危機に強い愛知」、「すべての人が生涯輝き、活躍できる愛知」、「イノベーションを創出する愛知」、そして「世界から選ばれる魅力的な愛知」といった将来のめざすべき姿を設定した上で、2030年度に向けた基本目標を「暮らし・経済・環境が調和した輝くあいち～危機を乗り越え、愛知の元気を日本の活力に～」といたしました。

この目標に向けて、県民の皆様を始め、国、市町村、企業、各種団体など、関係の方々とともに、地域づくりに取り組んでまいりたいと考えておりますので、一層のご理解とご協力を賜わりますよう、お願い申し上げます。

2020年11月

愛知県知事
大村秀章

策定趣旨

リニア中央新幹線が全線開業し、スーパー・メガリージョンの形成が期待される2040年頃を展望し、2030年度までに重点的に取り組むべき政策の方向性を示す。

目標年度

2030年度（計画期間：2021年度から2030年度まで）

Ⅰ 2040年頃の社会経済の展望

1 感染症・災害・犯罪リスクの増大

■世界の経済、社会を激変させる大きなリスクとしての感染症への意識の高まり

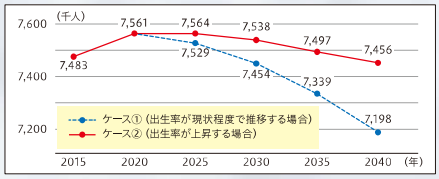
■今後30年以内に南海トラフ地震が発生する確率は70～80%

2 人口減少の進行、人生100年時代の到来

■3人に1人が高齢者に

■健康寿命が3年以上延伸

〈本県人口の将来見通し〉



出典：愛知県「第2期愛知県人口ビジョン」（2020年3月）

3 暮らし・労働・学びの多様化

■外国人の増加など社会の多様化の進行

■ICT化の加速による場所・時間概念の変容

4 共助社会の必要性の増大

■単身世帯の増加による社会的孤立の深刻化

■地域コミュニティの担い手不足

5 世界経済の多極化、経済重心のアジアへのシフト

■アジアに巨大な市場が形成

■サプライチェーンの多元化

6 世界的な人材獲得競争の激化

■高度人材の獲得競争の激化

■外国人材が国を選ぶ時代へ

7 第４次産業革命の進展

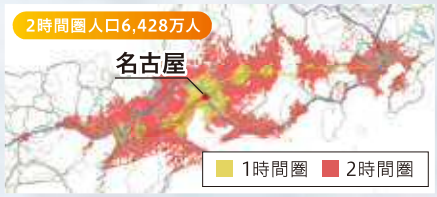
■AIやIoT等の技術革新が産業構造の変化や社会変革を誘発

8 スーパー・メガリージョンの形成

■リニア中央新幹線の全線開業により2時間圏人口が国内最大に

■過密化リスクへの意識の高まり

〈リニア全線開業時の時間圏（名古屋起点、鉄道＋道路）〉



三菱UFJリサーチ＆コンサルティング作成

9 都市のスポンジ化、高齢インフラの増加

■空き地・空き家の増加

■社会インフラの高齢化の進行

10 脱炭素化の進展、循環型社会への移行

■再生可能エネルギーが主力電源に

■SDGsの理念が世界に定着

Ⅱ　めざすべき愛知の姿

1　危機に強い愛知

～感染症や自然災害等のリスクに負けない強靱な地域へ～

新型コロナウイルス感染症は、世界の経済、社会に深刻な影響を与えるなど、人々に感染症のリスクを強く認識させた。また、南海トラフ地震を始めとした地震・津波災害や気候変動の影響に伴い頻発・激甚化する風水害などの自然災害は依然として脅威である。

そのため、いかなる危機に直面しても、被害を最小限に抑え、愛知が日本の成長エンジンとして、引き続き、我が国の発展を力強くリードしていくため、県民の生命・財産を守るとともに、速やかに社会経済活動を再開できる危機に強い地域づくりを実現していく。

2 すべての人が生涯輝き、活躍できる愛知

～多様性を尊重し、豊かな時間を楽しみながら、全員が活躍する社会へ～

今後、ＡＩ、ＩｏＴ、ロボットなどの技術革新の急速な進展により、社会経済の大きな変化が見込まれる。ＩＣＴ化による多様なライフスタイルの広がりや、外国人県民の更なる増加などを背景に、社会で多様性を受け入れていく必要性が益々高まっていく。人口減少や高齢化が進行する中でも、地域社会を支えていくためには、一人が複数の役割を担っていくことが期待される。

そのため、多様な価値観を認め合う寛容さを持ち、自分の可能性を高めて、次の時代を切り拓いていく人材を育成するとともに、すべての人が豊かな時間を楽しみながら、望む形で役割を担うことができる社会をつくっていく。そして、「人生100年時代」において、お互いが支え合いながら、地域で安心して暮らし、生涯にわたって輝き、活躍できる社会を実現していく。

3 イノベーションを創出する愛知

～柔軟な働き方の中で、世界とつながり、新たな挑戦と未来を拓く創造が可能な社会へ～

国内需要が減っていく一方、アジアでは富裕層が急増し、巨大なマーケットが形成されていく。そうした中、世界的な人材獲得競争の激化により、高度人材や必要な労働力が確保できなくなるおそれがある。また、第4次産業革命の進展により、AI、IoT、ロボット等の先端技術が経済活動を始め、幅広い分野において活用され、産業構造や人々の働き方、ライフスタイルを大きく変えていくことが見込まれる。

そのため、あらゆる産業で新技術の活用を進め、「産業首都あいち」として、国際的なイノベーションの創出拠点を形成していくとともに、未来を拓くイノベーションを生み出す人材を育成・確保していく。また、アジアを中心とした世界市場を獲得していくため、新たな投資や海外の留学生、高度人材を呼び込んでいく。さらに、テレワークや兼業・副業など多様で柔軟な働き方ができる社会を構築していく。

4 世界から選ばれる魅力的な愛知

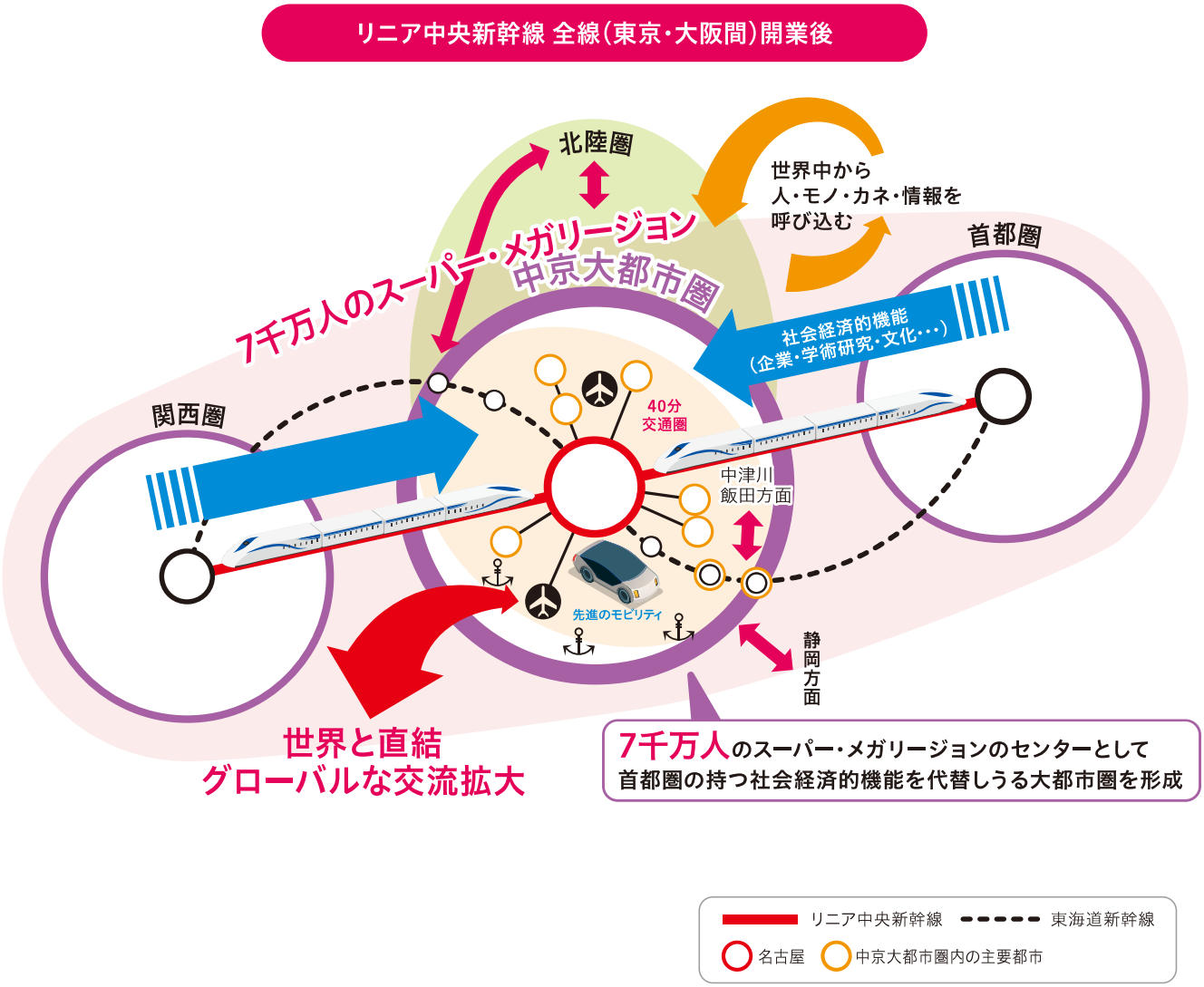
～県土をスマートに活用しながら、スーパー・メガリージョンのセンターを担い、
首都圏の社会経済的な機能を代替しうる大都市圏へ～

リニア中央新幹線の全線開業により人口7千万人のスーパー・メガリージョンの形成が期待される。一方、地域によっては、人口減少が進行し、空き地、空き家の増加など、都市がスポンジ化していくことが見込まれる。また、地球温暖化を始めとした地球規模の課題は益々深刻化するおそれがある。

そこで、スーパー・メガリージョンのセンターとして、世界中からヒト・モノ・カネ・情報が集まり、首都圏の持つ社会経済的な機能を代替しうる中京大都市圏の形成をめざしていく。あわせて、愛知ならではの強みを磨き、世界から選ばれる魅力的な愛知をつくるとともに、人口の維持・増加を図っていく。

また、ゆとりある生活環境を形成している強みを維持しつつ、持続可能でスマートな地域づくりを進めていく。さらに、再生可能エネルギーの普及拡大や自然との共生の実現等により「環境首都あいち」をめざしていく。

〈 中京大都市圏の発展イメージ 〉



Ⅲ 2030年度に向けた基本目標

1 基本目標

めざすべき愛知の姿を見据え、今後10年の地域づくりに着実に取り組んでいく必要がある。

目標年度である2030年度に向けては、2022年秋の開業をめざすジブリパークや2026年のアジア競技大会、2027年度のリニア中央新幹線などの数多くのビッグプロジェクトを着実に進め、地域の更なる発展につなげていくとともに、これらを最大限活かして、イノベーションを創出する好循環を生み出すことで、将来にわたって、日本の成長をリードし続ける愛知を形づくっていく。

また、目標年度を同じくするSDGsの達成に向けては、暮らし・経済・環境の3側面の調和を図り、持続可能な社会を実現していく。

あわせて、現在も県民の生活や経済活動に深刻な影響を与えている、新型コロナウイルス感染症の危機の克服に全力で取り組み、これを乗り越えていく。

こうした考えのもと、2030年度の地域づくりに向けた基本目標を、以下のとおり設定する。

暮らし・経済・環境が調和した輝くあいち

～危機を乗り越え、愛知の元気を日本の活力に～

2 進捗管理指標

基本目標の達成に向けた進捗を評価するための指標を定め、数値目標を設定。

暮らし	県民の幸福感　平均6.5点超の維持(～2030年度)
経　済	県内総生産の国内総生産に対するシェア　7.7%程度(2030年度)
環　境	温室効果ガスの総排出量の削減率(2013年度比)　26%削減(2030年度)

Ⅳ 地域づくりの推進に当たっての横断的な視点

- ◆現下の危機の克服と中長期を見据えた地域づくり
- ◆ビッグプロジェクトの効果を最大限に活用
- ◆SDGsの達成への貢献
- ◆多様な主体との連携・協働
- ◆自立した持続可能な大都市圏の実現と分権型社会の構築